

『顔が見当たらない』

作 吉田康一

○登場人物

ヤスオ(六〇代)

ヤスコ(六〇代)

※キャプチャ 互いに老いつつある夫婦の、ある日の朝の出来事。

※(リーディング上演に際して、改訂したり削除したりすること、了承します)

快晴。朝。

下手・前に鏡台、上手・奥(または上手)に(他の部屋へと通ずる)出入り口。
舞台中央にはローテーブル。モノが無造作に置いてある。

鏡台の前にヤスコが座っている。先ほどから鏡に映る自分の顔をふつうに見ていたが、
おや、と不思議そうに首を傾げる。それから長いことそのまま、まじまじと見つめて、
やがて――

ヤスコ なんだろう…いつもと違う…

おおきくあくびをして、ヤスコがコーヒーカップを手に、上手奥から入ってくる。

ヤスコ (立ち止まる)…どうした? やけに深刻そうだな。

ヤスコ うん…なんだか、いつものアタシじゃないみたいなの…

ヤスコ …具合でも悪いのか?

ヤスコ ううん。

ヤスコ じゃあなんだ? どこが悪いんだ?

ヤスコ なんだかね、顔が悪いの。いつものアタシじゃないの…

問。

ヤスコ 同じじゃないか。

ヤスコ …そお?

ヤスコ そうだよ。しっかり(眼を擦ったか? 朝だからな。寝ぼけてるのさ。

ヤスコ (眼を擦る。それから鏡で確かめて)…やっぱり違うわ。(ヤスコに、よく顔を見せ

て) ほら? (ちがう)でしょ?..

ヤスコ 同じだよ。

ヤスコ そお? (逆側〈右側〉に回ってみる)…こっち(から)なら、どう?

ヤスコ …同じだよ。

ヤスコ そお? …(また逆の方、つまり元の左側に立ってみて)…どう?

ヤスコ どっちもおまえさんだよ。

ヤスコ、テーブルに向かおうとする。

ヤスコ あ、ちよつと。(と、ヤスコの腕を掴む)

ヤスコ (コーヒーをこぼしそうになったので)……あぶね。こぼれるじゃないか。

ヤスコ 見てよ、ちゃんと。なんだか違ってるでしょ(アタシ)?

ヤスコ 同じだよ。いつもと一緒に。(テーブルに向かおうとする)

ヤスコ (立ちふさがる)ほら。ちゃんと見て。(近寄って)ほら。ほら。

ヤスコ ……よせやい。

ヤスコ (ぐいぐい近寄って)ほら。ほら。ほら。

ヤスコ よせつて。冗談はメシを喰わせてからにしてほしいな。とにかく、コイツ(コーヒー)を飲みたいんだ。飲んでシヤキーンとしたいんだ。

ヤスコ あら? 台所見なかったの? 置いてあつたでしょ?

ヤスコ ……ん? あつたのか?

ヤスコ 気が付かなかったの?

ヤスコ 探したんだけどな……

ヤスコ せっかく用意してあつたのに。

ヤスコ ……それってホントか……?

ヤスコ ええ。

いささか訝しいのか、ヤスコはコーヒーを持ったまま(上手・奥)に出て行く。

ヤスコ (再び鏡台と向き合つて、顔をじつと眺めて)……うーん。違う。やっぱり違う……。

ヤスコ、コーヒーカップを置いてきたのか、手ぶらで戻ってくる。

ヤスコ あつたよ。焼き鮭だったよ。

ヤスコ (向いて)……ねえ、あなたこの頃、変よ。大丈夫なの?

ヤスコ ……おまえだって変じゃないか。だろう? なんだい、顔が違つてさあ。

ヤスコ だって、本当に違うんだもの。

ヤスコ (ジーンと見つめる)……いつもの顔だ。安心しろ。うん。俺が保障する。

ヤスコ ……そうかしら。あなた、最近ボケてるじゃない…… (と、鏡に映る自分を調べ始める)

ヤスコ ……

ヤスコ、テーブルの前に座って、(そこにある)新聞をでーんと広げる。

ヤスコ …… (新聞を読むが、横目でヤスコを見る)

ヤスコ ——まるで吸いつけられるように顔が徐々に鏡に近づいてゆく……)

ヤスコ …… (思わず見ている)

ヤスコ ——(どんだん至近距離に)

ヤスコ …… (心配になって) おい。おい。(大きな声で)ヤースコー。

ヤスコ ——(鼻がくっつきそうな近距離で、いま、自分の顔を見入って)……

ヤスコが返事しないので、

ヤスコ (ヤスコの傍にきて)おい!

ヤスコ ひゃ! (びっくりした) ……なに?

ヤスコ まるで鏡の向こうに入っていくそうじゃないか。

ヤスコ ……そお?

ヤスコ そうだよ。

ヤスコ (鏡のほうに向き直して)なんだか近くで見るとね、ますます不思議な気分よ?

ヤスコ いくら見たって変わんないよ。そんなに近づいて見たって、そうだよ。

ヤスコ ……でもねえ、

ヤスコ でもね、じゃないよ。やっぱり、いつもと同じだよ。

ヤスコ (チラとヤスコを見て、やや考えて)——(鏡と向かい合う)

ヤスコ ……ふん、そうですか。

ヤスコ、新聞を読もうと腰を下ろす。コーヒーを飲もうとして気が付く。

ヤスコ おい。コーヒーはどうした?

ヤスコ 知らないわよ。持ってたじゃない。

ヤスコ そうだよ。そうなんだけど、それからどうしたっけ……。 (上手奥を見て)あっちか

……? (出て行く)

ヤスコ (見送って)ヤだわ。たいしたウツカリさん。

ヤスコ、今度はゆっくり鏡の中の自分の顔を、静かにジーツと見つめて……

ヤスコ (改めてハツとなつて) あなた! あなた!

急いでヤスコが入ってくる。手にはコーヒーカップを、気をつけて、持っている。

ヤスコ (びっくりして) どした?

ヤスコ ねえ、見て! ヤダ! この顔ったら…… (のけぞって驚いている)

ヤスコ ……つたく、またかよ。(相手にしないで、テーブルに向かう)

ヤスコ (鏡の中の自分を指して) 見てよ!

ヤスコ や。見飽きるほど見てきた。いちいち見なくなつてわかる。(背中を向けて座る)

ヤスコ ねえ、お願い。見てちょうだい。そして、この顔が誰の顔なのか、アタシに教えてちょうだい。

ヤスコ (思わず向いてしまった)

ヤスコ ね、誰? 誰なのよ?

ヤスコ ……おまえじゃないか。とぼけたこと言いやがって。(眼を戻す)

ヤスコ 違う。違うの。違うわよ。

ヤスコ 違うわないよ。(コーヒーを飲もうとする)

ヤスコ ちゃんと見て。

ヤスコ (飲もうとしたが、でも見て) ……おまえだよ。

ヤスコ 違う。

ヤスコ ……おまえだろ?

ヤスコ だから違うの。

ヤスコ じゃあ、おまえじゃないのか?

ヤスコ そうよ。

ヤスコ ……いやや。いつものおまえだよ。いつもどおりだよ。そうじゃないか。

ヤスコ あなた、どうかしてるんじゃないの? この顔がどうしてアタシなのよ?

ヤスコ は……?

ヤスコ (鏡を覗いて) 目鼻立ちがぼんやりしてるし……それに醜い……

ヤスコ、コーヒーを手にしたまま、静かに立ち上がった。

ヤスコ (ヤスコの額に手を当てる) あ、熱っぽいな。

ヤスコ (ヤスコの手を除けて) こまかさないで。アタシじゃないなら違うってハッキリ言うてよ。

ヤスコ (除けられた拍子にコーヒーをこぼした) ……ったく。こぼしたじゃないか…。

ヤスコ 持って歩くからでしょ。そつちよりコツチのほうが深刻でしょ？

ヤスコ ……自分に夢中になりすぎじゃないか？ (床を見る) あーあ…。

ヤスコ だって怖いじゃない。鏡見たら、別人のようなアタシがそこにあつたのよ。

ヤスコ (テーブルにコーヒーを置きに向かう) 心配するな。い、つ、も、どおりだ。

ヤスコ (首を横に強く振る)

ヤスコ、テーブルにコーヒーカップを置き、それから辺りを見回す。

ティッシュに眼がとまつて、何枚か抜き取って、今度はこぼした箇所へ…。

ヤスコ ガンコだな。

ヤスコ ガンコじゃない。…アタシはね、アタシの顔が違う顔になってるって言うてるの。

ヤスコ (拭きながら) 知ってるよ。何度も聞いた。おまえは言うてるね。ずっと、ずっと。

ヤスコ じゃあどうして、そうだって認めてくれないの？

ヤスコ だって、そうじゃないんだから。

ヤスコ だから、それはどういうこと？ そうじゃないのなら、アタシのこの顔は誰だって思うの？ ねえ？

ヤスコ だからそれはおまえだつて。ずっとずっと俺は言うてるじゃないか。いつもと同じ、

おまえの顔だつて。(拭き終わった)

ヤスコ だからそうじゃなくなつて。(アタシは違うって言うてるじゃない。

ヤスコ ああ、言うてるね。ずっと言うてるね。でもそれが違うって言うてるんだよ、俺は。

そのことを認めるよ。おまえはいつもの顔だ。わかったか？ (ゴミ箱を探す)

ヤスコ …アタシの言うてること、どうして認めようとしらないのよ。

ヤスコ (足が止まる)…じゃあなにか？ 認めればいいのか？

ヤスコ そうよ。

ヤスコ でも違うよ。その顔はやっぱりおまえの顔なんだよ。おまえさん自身なんだよ。(ゴミ箱が見当たらない)…拭いたティッシュを持ってウロウロし始める)

ヤスコ アタシはね、アタシ自身がこの顔がアタシじゃないと言ってるの。だからあなたの

言ってることのほうが間違ってるの。

ヤスコ わかった。わかったよ。おまえは折れない。そういうヤツさ。だから俺から曲がる。譲歩しようじゃないか。…じゃあ、おまえは誰なんだよ。

ヤスコ だからそれを教えてほしいの。

ヤスコ ……おまえだよ。

ヤスコ もう！ 話にならない！

ヤスコ おお！ そのツラが自分じゃないって言うんなら、おまえは一体、誰なんだよ。

ヤスコ アタシじゃないの！ …アタシじゃないんだって。…違うんだって悲しくなってる(…どうしてアタシには違うものに見えて、あなたにはいつもと同じに見えるの…？ どうして同じものを見ているのに、違った風に見えるのよ…)

ヤスコ …… (ヤスコの顔色のほうを懸念して)…探し物が見つからない。どこにあるのだろうか…？

ヤスコ あっち！ (上手奥のほうを指した)

ヤスコ、ここは黙って、拭いたティッシュを握ったまま、出て行く。

ヤスコ、向き直って、鏡に映る自分の顔を見て…指をさして「あなた、誰よ、誰なのよ」と問いかけた。それから頭を抱えて突っ伏した…

ヤスコ、あたかも陰から見ていたかのようなタイミングで戻ってくる。

ヤスコ (ゴミ箱を抱えている)なあ、思ったのだけでも、ひよつとすると鏡の仕業じゃないか？ もうずいぶん磨いてないよな？

ヤスコ 汚れてない！

ヤスコ でもさ、万が一にも鏡がさ、

ヤスコ (遮って)見たものをそのまま映し出す、ありのままに映し出す、それが鏡つてもんですよ。だからこの顔は本当なの。アタシは違う顔になったの。違う人間になったのかも。心も様変わりしちゃうのかもしれない…そしたらアタシ…アタシ…

ヤスコ ……大げさだよ。見え方の問題だろう？

ヤスコ (顔をあげて)…結局あなたにはアタシの顔がいつも通りなのね。そういう見え方なのね？

ヤスコ そいつは、だって…まあ、いつもの顔だから…

ヤスコ (語気強く)アタシはこんな顔じゃない！

ヤスコ ほほほほ…そう言ったってなあ、おまえなんだもんなあ…(困った)。じゃあ、

俺の顔のほうはどうだ？

ヤスコ、彼の顔をじっと見つめた……………

ヤスコ そういえば、あなたの顔もいつもと違うわね……………どうしてかしら？

ヤスコ ……脅かしつこナシだぜ。おい……………

ヤスコ、鏡台の前にきて、鏡を覗いてみた。

ヤスコ ああ、いつもどおりだ。こんな老け顔だ。…鏡に異常はない。

ヤスコ あら？ そんなタヌキ面だったかしら？

ヤスコ ……

ヤスコ そんなタヌキのどこが良かったのかしら。

ヤスコ ……おいおい、滅多なこととは言うなよ。一緒になって40年は経つんだぞ。

ヤスコ そんなことにアタシ、どうしていままで気付かなかったのかしら……………

ヤスコ ……惚れたのはお互い様じゃないか。今更そんなこと……………あんまりじゃないか。

(鏡を覗いて、いま一度、顔を確かめて)…まあ、昔に比べたら見劣るなあ……………

ヤスコ タヌキ。

ヤスコ ……まあ、いまじゃタヌキだな。おまえだって、あれじゃないか……………(と言いかけて)

その顔は、おまえにはどう見ているんだろうな……………？

ヤスコ あなたとは違ったふうよ。ぼけつーと、のっぺりしてて…とにかく醜いわよ。

ヤスコ ……じゃあ、あれだな。どっちが本当で、ありのままの姿かもわからないな。俺がお

まえの顔を、おまえが見ているように見ていないのなら、俺のこの眼は節穴か？ それと

もおまえの眼が……………どっちなんだろうな？

ヤスコ どうなのかしらね。信用できるのは自分のほうじゃないの、結局。

ヤスコ 寂しいこと言うなよな。

ヤスコ だってアタシの言ってること、信じてないじゃない。

ヤスコ ……うん。……………じゃあ、目の前のカガミさんに訊ねてみるか。(鏡台に向かつて)…

鏡よ鏡よ鏡さん、

ヤスコ 魔女じゃない！

ヤスコ 魔女に見えちゃいないさ。(ヤスコの頭を掴んで、ぐっと寄せて鏡に映す)

ヤスコとヤスコ、揃って鏡の中の自分たち窺うように見る。
探るように鏡の中で二人、見つめ合ったりしながら……

ヤスコ あれ……？　　そういや、おまえ、なんか足りないな……

ヤスコ ほら。やっぱり違うでしょ？

ヤスコ ああ。顔になにか欠けてる。そんな気が……

ヤスコ (耳や鼻を触って確かめる)ちゃんとある。

ヤスコ (鏡に近寄って、見入って)なんだろう……

ヤスコ (ハツとなって眉を確かめる)ちゃんとある。

ヤスコ (笑った)そりゃ触らなくとも(見りゃ)わかるだろうよ。(と言ってヤスコを直接見た

瞬間、ハツとなった)いけねえ！

ヤスコ え？

ヤスコ おまえ、眼鏡どうした……？

ヤスコ (思わず触れて)あら、ホント……

やや間。

ヤスコ いやだわ……。アタシ、なんで気が付かなかったのかしら。

ヤスコ なんで気付かなかったのだろうか、俺も。……ずいぶん簡単なことだったじゃないか。

ヤスコ ……そうね。……どうしてこんな簡単なことに気が付かなかったのかしらね？　間抜けよね？

ヤスコ (笑う。穏やかに)

ヤスコ (つられて笑う)でもイヤね。しっかりしてると思っても案外忘れっぽくなっているのね。なんだか自分が信じられない。……ひどいウツカリさん。あなたみたい。

ヤスコ 人間、忘れていくことのほうが正常なんだよ。しょうがないさ。

ヤスコ、(鏡台の引き出しを開ける。他の引き出しも開ける……見当たらない)いつもはこのあたりにしまうのに……でも、ないわね……。どこに片付けたのかしら……

ヤスコ ……ないのか？

ヤスコ (探しながら)外したら、いつもこのあたりにしまうような気がするんだけど……。

ヤだわ…ホント、ウツカリね……

ヤスコ しょうがねえな。(と、かけていた眼鏡を外す)——ほら。

ヤスコ …なに？

ヤスオ 見つかるまで、かわりばんこに使えばいいじゃないか。

ヤスコ でも、したらあなたがあれじゃないの？ ……いいの？

ヤスオ いいよ。とにかくかけろよ。顔を確かめなくちゃ。だろう？

ヤスコ ……やさしい人。(眼鏡を受け取って、かける)

ヤスオとヤスコ、鏡の中で互いの顔を見合う。

ヤスオ どうだい？

ヤスコ うん。いいみたい。

ヤスオ ……そうかい？

ヤスコ うん。(ヤスオを見て) ね？

ヤスオ ……そうだね。

ヤスコ (鏡を見る、その表情がだんだん元気になっていく……) うん。

ヤスオ ……どうだい、タヌキかい？

ヤスコ (ヤスオを見て)……そうね……なんとなく、そうね。

ヤスオ ……うん。

幕。